

統計調査員

大谷村は前にも書いた様に比較的廣い面積を有してゐるの
で調査區も十九區に分れてゐる。今その分擔を掲げれば

調査區	勤続年數	氏名	年齢
一	八年十一月	酒井 憲	(五〇)
二	全	米川 誠一	(五一)
三	全	藤枝 善弘	(四四)
四	全	皆藤 源治	(三三)
五	全	内山 秀雄	(三七)
六	全	川澄 信雄	(四三)
七	全	川澄 健夫	(四三)
八	全	江沼 仁三郎	(五三)
九	全	小沼 弘義	(四六)
十	全	田崎 興	(五六)
十一	全	井川 都六	(五八)
十二	全	石崎 一郎	(三七)
十三	全	龜山 進	(三五)
十四	全	白田 幹	(四五)
十五	四年十月	井川 清正	(五〇)
十六	二年十月	小沼 武之輔	(三八)
十七	一年十月	山口 俊	(四〇)

十八 八年十一月 小沼 利雄 (三六)

十九 一年十月 吉田 誠壽 (四八)

此の表を見ても判る様に同村の調査員は何れも數年間統計事務を鍛錬した手腕家揃ひで、豊田主任指導のもとに着實眞面目な仕事振りで記者が視察に行つた日も風雨を冒して役場に参集して打合懇談をするといふ熱心さである。皆藤村長なども統計調査員の眞剣さに打たれ、總豫算四萬五千圓のうち統計費は五百二十一圓を割き、調査員手當は一八十五圓、そのほかに米生産統計手當五圓を給し、統計事務の刷新向上を圖るには先進地の視察に如くものはないと千葉縣や東京へ調査員を派遣してゐるが、今後も出来るだけ毎年調査員の視察を實行して奨励したいといつてゐる。同村の統計事務が優良な成績を収め書類等の整然たる事は前にも記したが、之は豊田主任の熱心さばかりでなく調査員が統計の重要性を認識して仕事に精勵してゐるからで、特に家畜調査にまで小票を利用してゐる点などは他町村の参考としてよい所であらう。同村から出征した戦歿英靈の墓参もし、巖島神社や楠木神社などにも参詣したいと思つたのだが何しろ風雨はひどいしバスの時間は切迫するし止むなく果さずには歸途についた。

最近の統計



昨年中縣下の食用農産物

甘藷が大關で七百五十余萬圓

總額は一千六百三十二萬圓を越ゆ

昭和十四年に於ける縣下の食用農産物(大豆、小豆、粟、黍、玉蜀黍、蕎麥、甘藷、甘藷切干、馬鈴薯)の作付反別は
三萬九千八百六十一町二反歩で、その生産總額は一千六百三十二萬五千六百四十八圓である。生産額を種類別に見れば

- 甘藷 七百五十四萬二千七百四十二圓(五千二百七十七萬九千三百四十二貫)
- 大豆 三百六十五萬四百四十圓(十二萬一千三百三十石)
- 甘藷切干 四百四十萬九千二百五十二圓(二百九十三萬七千九百七十七貫)
- 馬鈴薯 四百四十二萬五千六百六十七圓(七百九十三萬七千九百一十一貫)
- 蕎麥 八十二萬五千五百八十三圓(四萬六百三十三石)
- 粟 五十九萬二千九百二十五圓(一萬六千二百二十五石)

萬二千九百七十四圓(二萬九千三百八十九石)△玉蜀黍 三十萬六千五百七十四圓(二萬一千九百四十一石)△黍 五千八百八十五圓(三百十九石)○稗 五千六百六圓(四百三十三石)

の順序で黍及び稗の五千余圓を除いては孰れも三十萬圓を越え、之を前年に比すれば作付反別に於て米麥等主要食用への轉換に依り一千六十二町八反歩(一分六厘)を減じたが價額に於ては六百九十二萬四千七百六十五圓(七割二分七厘)の増加を示した。之は前年は未曾有の水害の爲收穫が著しく減少したのに反し昨年は氣候が順調だったので増收したのと價額の騰貴したのに依るものである。尙ほ種類別に作付反別、收穫

高、價額を前年に對比すれば次の通りである。(△印は減)

種別	作付反別	收穫高	價額	前年=比シ増減
大豆	一五、五九、四反	三三、三〇石	三、六〇、二四〇圓	△一〇〇、五五反
小麦	二、四〇三反	二六、三三五	五九、二九五	△一〇、八四反
粟	一、七六、三四〇	二九、六九九	五二、九五四	△一、五八反
ヒエ	一、九〇	四三、三九	八三、五〇六	△一、五八反
キハコ	一、三三、二二	二二、四二	三〇、六五四	△一、五八反
トウモロコシ	一、三三、二二	四〇、六三〇	五三、五八	△一、五八反
ソウマイ	一、三三、二二	五、二九、四三三	七、三三、七三	△一、五八反
サツマイモ	一、三三、二二	二、九七、七	一、四九、五三	△一、五八反
ジャガイモ	一、三三、二二	七、九七、九二	一、四九、五三	△一、五八反
計	二〇、六六、二	三、六八、二	六、三、五、六八	△一、〇三、八

縣内昨年の耕地面積は 二十一萬三千餘町歩

總面積で一千七百町歩の増加

畑の開墾擴張が斷然多い

昭和十四年末現在に於ける本縣の耕地面積は二十二萬三千九百四十四町歩で、畑別に觀れば田九萬六千三百七十町六反、畑十二萬七千五百七十三町四反で、之を前年に比すれば

總面積に於て一千七百八十一町(零分八厘)を、田に於て五百六十四町三反(分零五厘)を、畑に於ては一千二百十六町七反(零分九厘)を孰れも増加した。

尙ほ耕地面積昭和十四年中に於ける移動を見るに増加面積二千四百二十六町九反歩、内擴張二千三百八十三町歩(九割八分二厘)實測の結果に依る増加四十三町九反(一分八厘)減少面積は六百九十三町五反である。内潰廢したるもの六百四十四町八反(九割二分九厘)實測の結果に依る減少四十八町七反(七分一厘)である。之を田畑に分てば

増	減	實測増	實測減
田	七三、三三反	二六、八〇	一七一
畑	一、六〇、八	三、七	四六、八
増	二、三、三	二六、八〇	三、七
減	一、六〇、八	三、七	四六、八

で、更に擴張潰廢を種類別に觀れば

擴		張		潰		廢	
開墾	田	田	畑	宅地並工場及建物敷地	田	田	畑
三三、三	一、四六、七	五〇、三	二五、九	三〇、〇	二七、二	三〇、〇	二〇、七
荒地復舊	地目變換	田	畑	道路鐵道軌道河川及水路敷地	田	畑	其ノ他
三七、七	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三六、	三五、五	三六、	六八、九
埋立及干拓	田	田	畑	變地類及地目換	田	畑	六八、九
畑	三三、〇	三三、〇	三三、〇	三六、	三五、五	三六、	六八、九

となり、以上の外田畑相互間に於ける移動面積は田を畑としたもの五反歩、畑を田としたもの十一町八反歩である。次に耕地面積を郡市別に觀れば稻敷郡二萬三千五百六町三反が首位を占め、新治郡の二萬二千二百二十五町六反歩、東茨

城郡二萬一千二百七十六町三反の順で、其の他は孰れも二萬町歩以下であり、水戸市及び日立市を除き多賀郡の六千三百四十四町八反歩が最少である。郡市別の内譯は左の通り。

郡市別	年	末	現在	前年=比シ増減(△ハ減)	年内移動面積(増)
水戸	耕地	三、四、六反	三、三、二反	△一、四反	一、四反
	畑	三、三、二反	三、三、七反	△一、九反	一、九反
日立	耕地	二、六、三反	三、七、八	△一、一五反	一、一五反
	畑	三、三、二反	三、七、八	△一、四六反	一、四六反

東茨城	二、三三、三	七、一〇〇、八	一四、七四、五	三三、九	一七、二、五	六、四、四	三〇、一	七〇、二	—
西茨城	一〇、三三、五	四、九〇、一	五、四三、四	二八、二	△三、七	三〇、九	五〇、〇	三五、八	—
那珂	九、一〇、〇	五、六四、七	三、三六、三	三三、八	二〇、六	三三、二	四九、三	〇、七	二五、八
久慈	三、九一、九	六、四九、三	七、四三、六	八三、六	六、四	三三、二	三〇、一	〇、七	二九、六
多賀	六、三四、八	三、六八、〇	二、七六、八	△四、五	三、八	△七、三	四、五	二、六	一、九、五
鹿島	一七、五九、九	六、五七、四	二、九二、五	二八、九	三、三	二八、六	三三、九	二九、五	七五、〇
行方	二、一〇〇、六	六、三三、五	四、六七、一	九四、五	一四、七	七九、八	一〇〇、一	—	五、六
新治	三、三三、三	二、八四、三	九、六九、〇	三二、七	七、七	九四、〇	二、六、〇	—	—
筑波	一五、八八、二	七、一八、四	八、六三、八	一〇〇、七	八、〇	九三、七	一、五、四	—	—
眞壁	一九、六七、七	九、五七、六	一〇、二六、一	三六、四	四、七	八四、七	八六、八	二、四	一〇、一
結城	六、八九、〇	六、三三、七	一〇、一〇、三	一〇七、九	九、三	九八、六	一、四、九	—	六、五
猿島	一七、一〇〇、九	四、五七、三	三、四三、六	二九、〇	四、三	二九、七	二七、六	—	三、六
北相馬	八、九七、一	四、八九、七	三、八九、四	六、七	四、三	一、二、四	六、〇	—	九、三
合計	三三、四四、〇	九、七〇、六	一七、五三、四	一七八、〇	五四、三	一、三六、七	二、三六、〇	四三、九	六四、八

蒟蒻芋、實棉、薄荷

縣下昨年の生産額

縣下に於ける昭和十四年中の蒟蒻芋、實棉、薄荷の生産額は

種類	作付反別	收量	價額
蒟蒻芋	八〇三、二反	一、七三、五四貫	一、四三、四六圓

果樹の收穫高

總額九十四萬圓

昭和十四年度中に於ける梨、リンゴ、柿、干柿、ブドウの樹數、收穫高、價額は

樹數	收穫高	價額	
梨	三四、七二本	一、八五、三二貫	六四、五九圓
リンゴ	一、一三	三、八三	三、三〇圓
柿	二五、四七	八五、四四	三〇、八六
干柿	—	三、四三	四、九九
ブドウ	二七、二四	一四、四七	六、〇八
計	—	—	九六、八六

で、昭和十四年度中に於ける是等果實の收穫狀況は、八月四日縣下を襲つた、大暴雨の被害は、梨園に於けるもの、柿の實の振り落されたもの、ブドウの樹の枯死したもの、其の損害は甚大だったが、是等生産價額は一般に價格の高騰せる爲、前年に比し約二十一萬圓増加し九十三萬九千八百四十六圓を示した。

實 荷 三七、三
薄荷 一七、七〇
一、五三、三三
一七、九〇

で前年に比較すれば數量に於て蒟蒻芋十四萬五千三百二十二貫、實棉二萬七千三百三十一貫、薄荷四千二百十四貫を又價額に於て蒟蒻芋五十五萬七千二百二十二圓、實棉十萬一千二百一圓、薄荷三千圓を孰れも増加した。

縣統計課員異動

二月二十二日付で本縣統計課員中左の如く異動があつた
(統計課)屬 塚本 正 毅

經濟部商工課勤務ヲ命ズ

統計主事補 山中 平 守

(人事課)雇 中 島 武 夫

任縣屬總務部統計課勤務ヲ命ズ

(社兵課)雇 堀 江 啓 祐

任統計主事補總務部統計課勤務ヲ命ズ

農林省事務監査

統計事務監査の爲、去る二月十二日より五日間に亘り農林省より農林屬兼統計官補森松孝作氏外三氏が來縣々統計課並に左記町村に就き監査を施行した。

眞壁郡中村、多賀郡高萩町、久慈郡袋田村、行方郡麻生町